

62 安全管理

道路付属物設置工事における安全対策について

福岡県土木施工管理技士会
株式会社 廣瀬組
監理技術者
末次 優太

1. はじめに

工事概要

- (1) 工事名：福岡208号道路付属物設置工事
- (2) 発注者：国土交通省 九州地方整備局
有明海沿岸国道事務所
- (3) 工事場所：福岡県大川市三丸地先
～福岡県大川市小保地先
- (4) 工期：令和2年9月1日～
令和3年3月29日

本工事は、国道208号有明海沿岸道路の未開通区間大川東ICから大野島ICまでの開通に向けて、大川東IC及び大川高架橋上に、道路付属物を設置する工事である。

2. 現場における問題点

① 落下物防止柵の設置について

落下物防止柵は、現道各交差点上の新設高架橋に設置されるため、施工中に高架橋上から現道に資材等が落下する危険が考えられた。そのため、資材等の落下物を防止する方法及び現道を走行する一般車に、影響の少ない時間帯で施工を行う必要があった。

② 大川東IC区画線について

大川東ICについては、一般車が通行しており（ON、OFFランプ）、区画線の施工は、夜間全面通行止めで施工を行う必要があった。また、大川東ICの区画線施工時期は、大川東ICから大野島

ICまでの開通約1ヶ月前に施工を行うため、大川東ICのON、OFFランプ部の区画線（破線）を塗装してしまうと、一般車を視線誘導してしまう恐れがあった。そのため、施工時期を区画線（破線）のみ開通直前に施工を行うか、区画線（破線）を開通までの期間目隠しをするか、検討する必要があった。

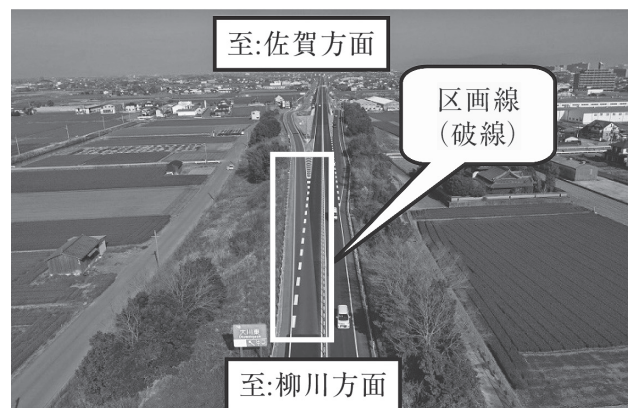


図-1 大川東IC全景写真

3. 工夫・改善点と適用結果

① 橋梁点検車の使用及び夜間工事

落下物防止柵は、高架橋の壁高欄上部にベースプレート式支柱を設置して、金網を設置する必要がある。高架橋下の現道は一般車が通行しており、資材やボルトナット等の落下物が無いように施工する必要があった。そのため、施工時は橋梁点検車を使用し、落下物防止柵設置時に、もし落下物があった場合でも、橋梁点検車のバケットで受け止められるように細心の注意を払って施工を

行った。また、橋梁点検車のバケットには、隙間からの落下物が無いようネットで覆った。

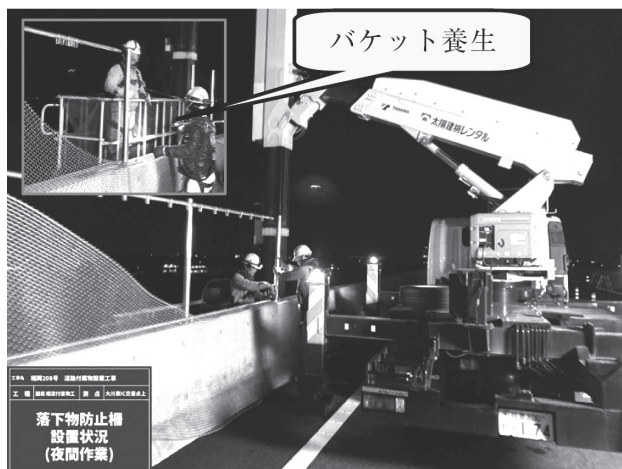


図-2 橋梁点検車による施工状況

上記の橋梁点検車による落下物防止対策の他に、俯角75度影響範囲については、一般車に影響の少ない時間帯での施工を行うため、夜間で施工を行った。落下物防止柵夜間工事では、交差点内道路は片側交互通行で施工を行い、高架橋に隣接する側道は全面通行止めで施工を行った。また、夜間工事の工程を短縮するために、5カ所の落下物防止柵設置箇所を各1日で施工を終えるよう施工人数を増員して施工を行った。

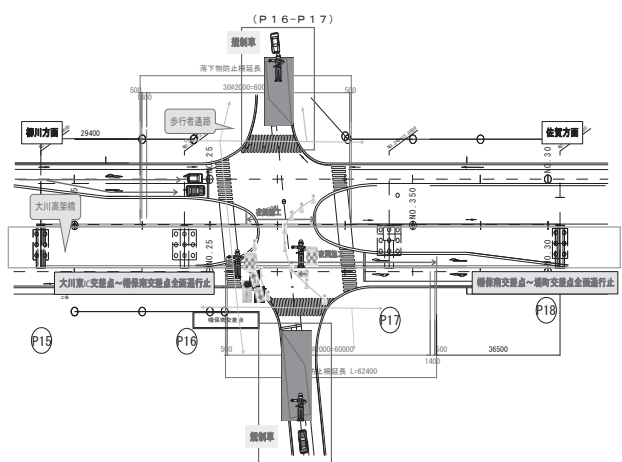


図-3 夜間工事交通規制図

② 区画線（破線）の目隠し

大川東IC部の区画線設置時期が開通の約1ヶ月前に塗装するため、開通前直近に塗布する場合と、区画線（破線）を塗装しておき、約1ヶ月間を目隠しして、開通前日に目隠しシートを撤去す

る場合と検討した。開通前直近に、区画線（破線）を塗装した場合は、有明海沿岸道路本線を再度全面通行止めで施工する必要があった。そのため、全面通行止めを行わない方法として、丈夫で長期間設置しても剥離しないシートが確保できたため、目隠しシートで対応することにした。



図-4 区画線（破線）目隠し状況

上記の区画線（破線）をシートで覆い目隠しすることで、開通前直近に有明海沿岸道路本線を再度全面通行止めして、施工する必要がなくなったため、工程を短縮する事ができた。目隠しシートは、長期間設置していたが、一度も剥離することはなく、修繕の必要がなかった。また、目隠しシートの撤去も容易にできたことで、無事に開通を迎えることができた。

4. おわりに

本工事は、有明海沿岸道路大川東ICから大野島ICまでの開通に向けて工程が厳しい中、発注者及び関連業者と工程調整を密に行い、安全に作業を取り組んだ結果、無事故・無災害で工事を完了する事ができた。

最後に、近隣の住民の皆様から、ご協力いただいたおかげで、大きなトラブル・苦情等もなく無事に工事を終えることができた。